



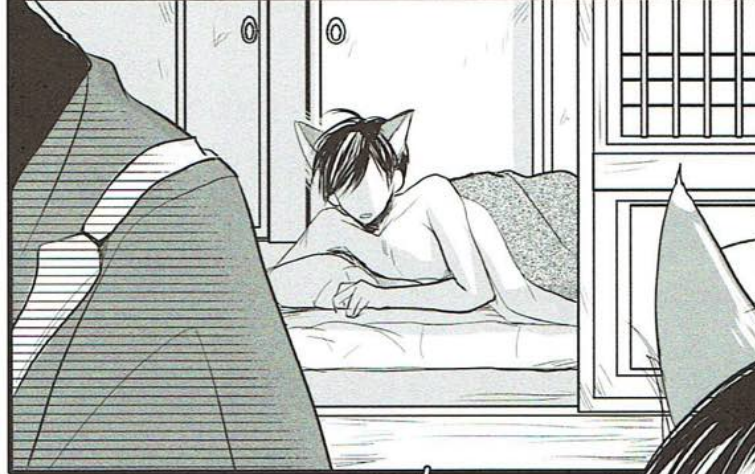
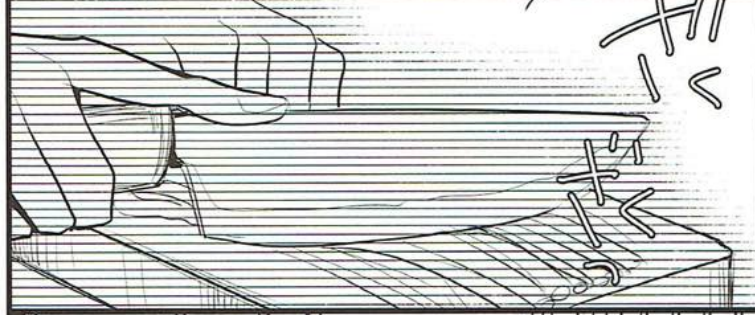
はつじょうてんこととめおのいこ

発情天狐と百々目鬼の恋

妖怪松

18禁
Adult Only

昔むかし
とある山奥の廃墟となった神社に
百々目鬼（とどめき）という妖怪が
身を潜めるようにして
ひっそり暮らしておりました





おはよ

俺のチヨロ松…



昨日のチヨロ松
めっちゃ可愛かった…

一晩中あんなに
激しく燃えたん
だからさ…

疲れてるでしょ？

朝飯の準備なんて…
無理しねえで
いいのに…



出て行け
いますぐ
ここから

この発情犬



いだだだだ
何すんだよ

包丁で刺されなかっただけ
マシだと思え…

まな板



…ちえ…俺
犬じゃないもん
天狐だもんね

それにこの神社 千年前は
俺の屋敷だったの！

ちよつと休もうつて
近くまで来たら
チヨロ松が勝手に
住んでたんじゃん

分かった。

じゃあ
僕が出て行く

空家だと思って
無断で
住み着いて
悪かったな

あつ
ま…っ
待つて待つて
チヨロ松！

チヨロ松

それは
昨日の出来事

いつも通り
薬草を探して
山林を歩いていた
僕は

その匂いに
引き寄せられる
ようにして

出会ってしまった

数百年に一度…いや
千年に一度とも言われる

発情期を迎えている
神獣天狐に…

発情中の天狐に
遭遇したら
逃げられない

犯される

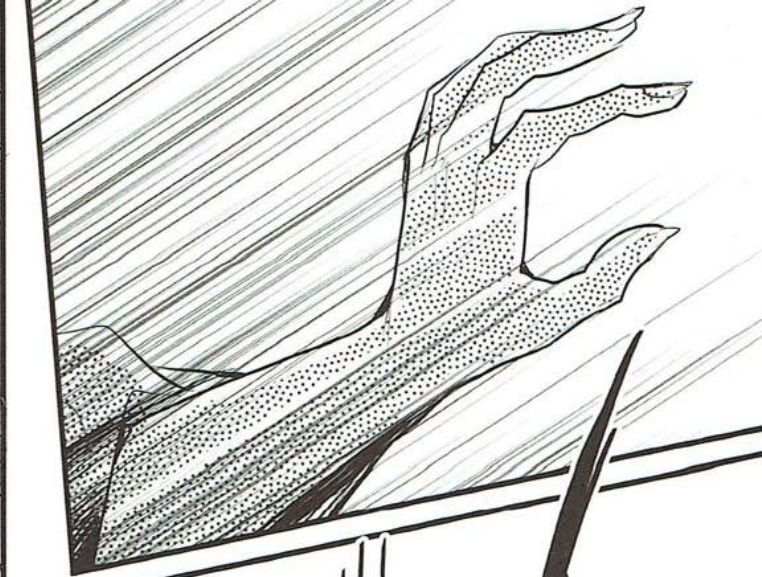
だから
天狐に気付かれる前に
慌てず騒がず
黙ってその場から離れて…

く…熊と同じ
熊と同じ…

それを
知つていながら僕は

お前…具合…

…悪いの…?



俺が見えるって事は人間じゃないよね...と

捕まえた



あ...この目...百々目鬼かあ


お前なんの悪さしちやったの？盗みか？

名前は？




そんなの昔すぎて忘れちやったよ

名前は
千ヨロ松



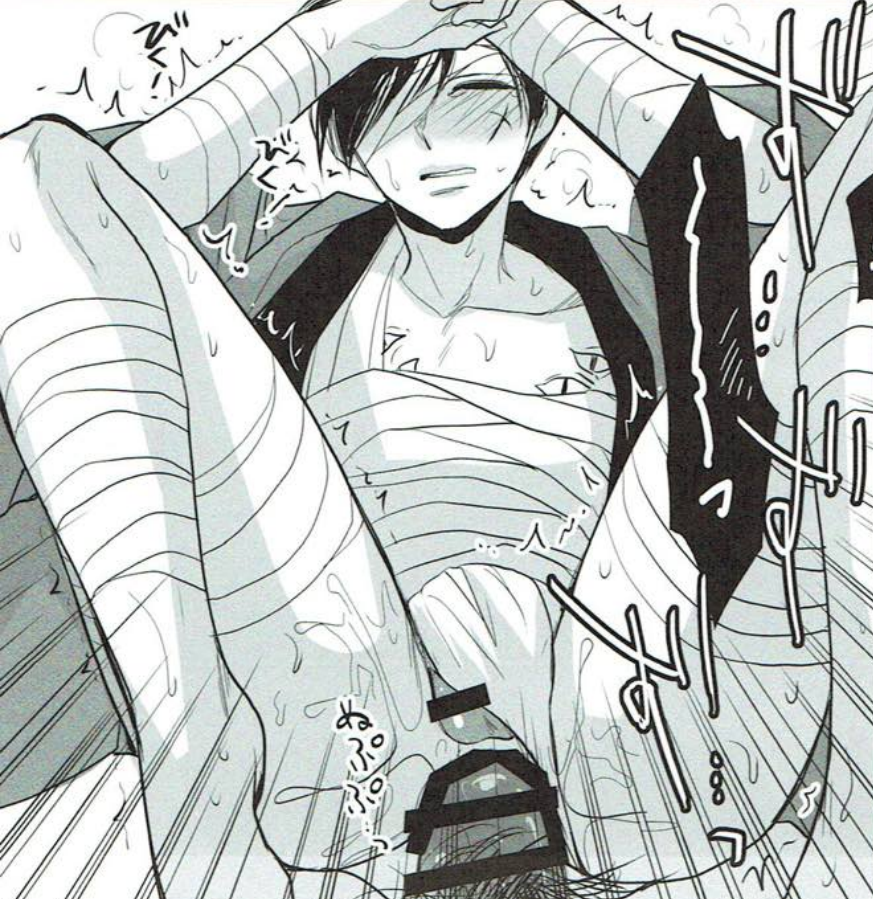
俺は
天狐おそ松

悪イけど
ちよつと
付き合つて？




すごいな…
後光が射して
見える…

金色に輝く
狐の神サマが
罪人の僕を犯すのに
「悪イけど」なんて
言うのか…



今…全然
余裕ないから…



いきなり…
だけど…



あ...
あははは...

ふっ
ふっ
ふっ

あ...あ...
あ...あ...
だ...だ...

チヨロちゃんの中
あったかくて
気持ちい...

精子出したくて
氣イ狂いそう
だったから...

助かるわ...

はっ
はっ
はっ



...とりあえず...
黙って付き合って
やれば...落ち着く
だろう...

...しかし...
数百年...独りで
人目を逃れて
生きてきたのに

いきなり
こんな風に
深く抱かれて...
身体...が...

チヨロ松...

すげーイイよ
お前...



ちゅく
ちゅく



ちゅく
ちゅく
ちゅく

ちゅく
ちゅく
ちゅく

ちゅく
ちゅく

ちゅく
ちゅく

ぬほ
ぬほ
ぬほ

ぬほ
ぬほ
ぬほ



あ…チヨロ松も
勃ってる？

乗って

あ、あ

コイツ…
この状況で
なにを言ってる…

だって
愛を感じる
じゃん？

俺ちゅーしながら
交尾すんの
だあい好き
だよ



お♡
お♡
絞まる

チヨロちゃん
接吻しながら
突かれるの好き？



好きじゃ…ないッ

えーなんでえ？
俺のちんぽ
こんなきゆうきゆう
絞めてくんのに



おそ松のちんぽ
気持ちいいって
言ってる

素直になれよ

ここいいだろ？
気持ちいいだろ？



オラオラ

あ、あ、あ

あ、あ、あ

あ、あ、あ



あ...
はは...っ
すげー
飛ばしたな

イイ顔...



もしかして
久しぶり
だった?

随分...
反応が
いいな...



あ...

あ...
あ...

あ...
あ...
あ...



久しぶり...
どころか...

他人と
触れ合うの自体...
何百年ぶりか...

おそ松の
肌が熱くて...

出すよ...



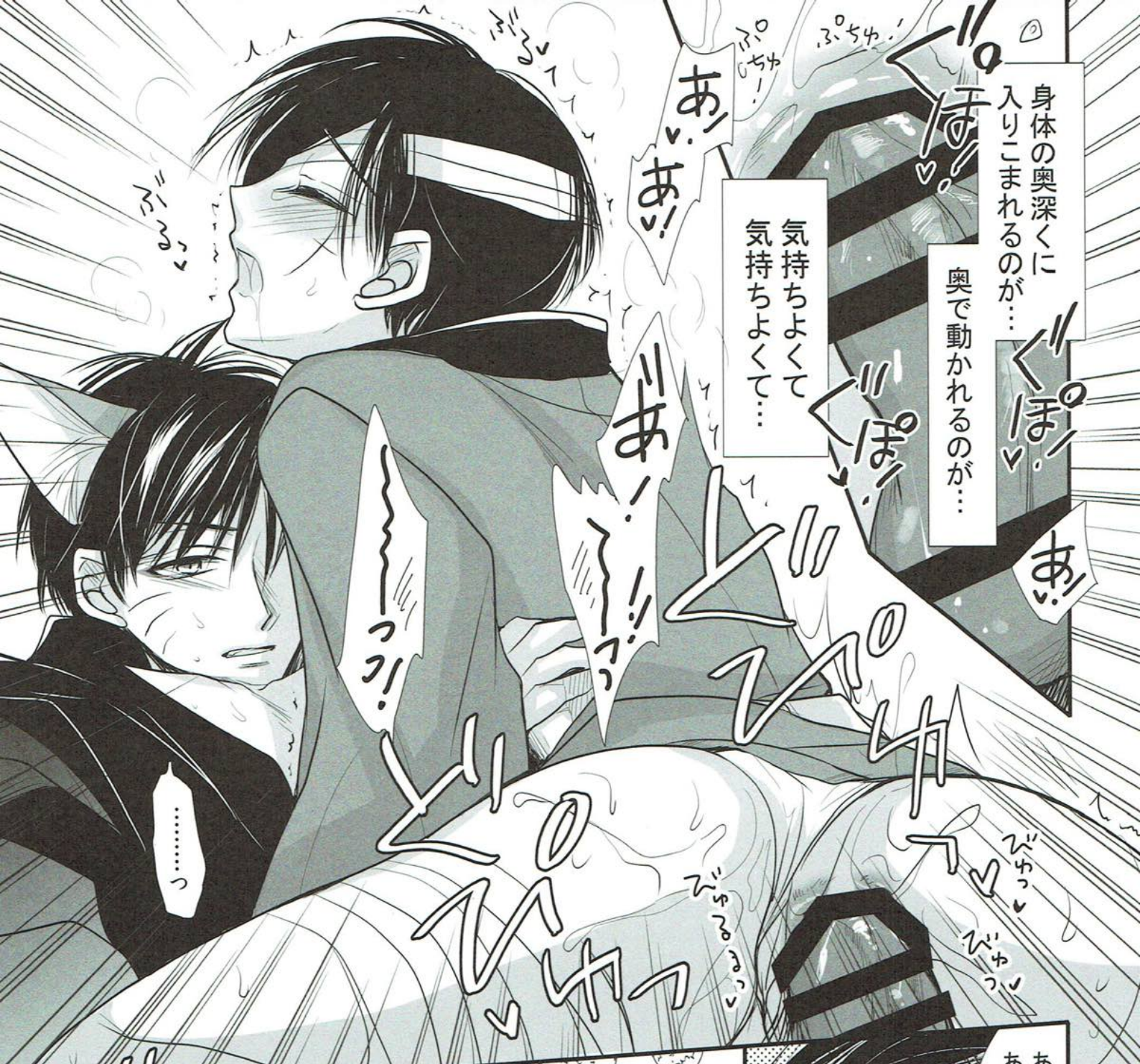
俺もだしていい?
もう...

可愛い

なんなの...
チヨロ松...お前
めっっちゃ可愛いな...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...



身体の奥深くに
入りこまれるのが…

奥で動かれるのが…

気持ちよくて
気持ちよくて…

っっっ!

あーあー

ほーほー

あー



抜いたら…やだ
もつと…

おそ松…っ



チヨロ松…

あ…や…

やだ!

離れるな…っ

あたたかい…

あたたかい…



チヨロ
ちゃん?

もっ…



あ…
あたたかい…

体の中に
あたたかい人肌の…が
はいつてくる…

あ…あ…

あ…あ…
して…
して…

もど…

ちようだい…

ああ…
よしよし

かわいそうだね
チヨロ松

お前
どうしてそんなに
飢えてるの——…

だって僕は
何百年と
独りぼっち
だったんだ

遙か昔に罪を犯して
全身に目が現れて

あの廃墟の神社に
隠れ住んでから
孤独で孤独で孤独で

朝目が覚めると
絶望しかなかった

もういい加減
許されたいんだ
独りは嫌だよ

誰かと共に生きたい
愛し愛されて生きたい



ふ…

どうして
追いかけてくるの
天狐サマ

僕は
用済みでしょ



…誰かと

千ヨロ松!

ちよつと
待っててば!

どこ行く
つもりなの!



千ヨロ松だって
求めてくれたんじゃ
なかったの?あの時…

そんなの
覚えてない

こ…
これつきりだなんて
悲しいでしょ?

悲しくない



そんな…
悲しいこと
言わないでよ

そりゃいきなり
やっちゃったのは
悪かったけど



俺千ヨロ松と
もつと仲良くなりたいたいし
千ヨロ松の事もつと知りたい

だつたらなんで
泣いてるの?

おは？

おは
おは
おは

おは
おは

おは...

僕は泣いてなんてないけど？

違うツツ

お・も・ら・し・♡

はは...冗談
ジョーク

チヨロちゃんてば泣き方を忘れちゃったの？

でもさあ本当に俺ら...

このまま離れちゃったら寂しくね？

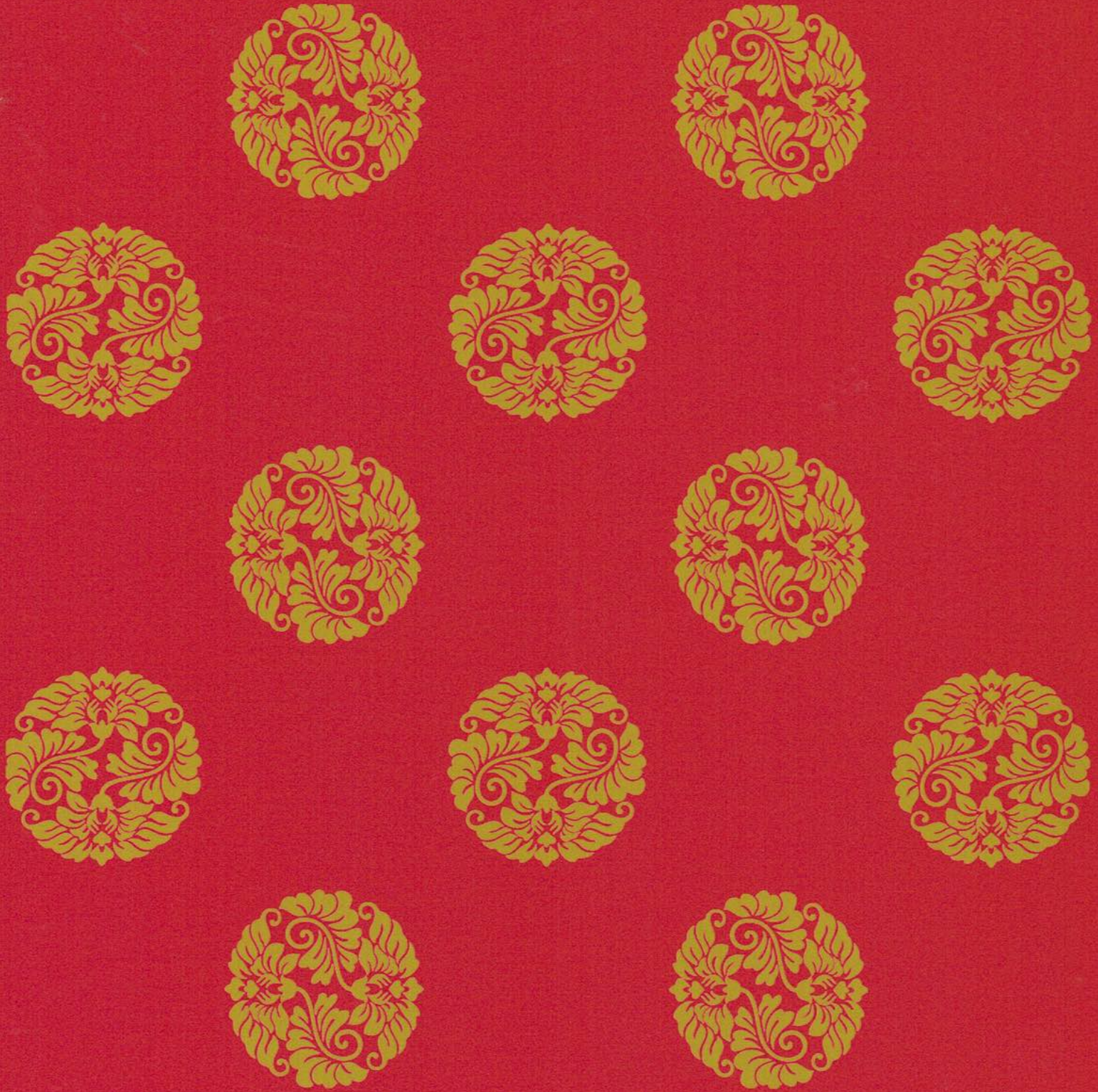
少なくとも俺は滅茶苦茶寂しい



一緒に暮らそう



END



ayafujii private circle 2017
OSOMATSUSAN unofficial fanbook
#013